

# 各コースと研修科の概要

## 【果樹コースの概要】

- 主要な落葉果樹（ニホンナシ、ブドウ、カキなど）を栽培管理している。
- 栽培面積は約1haであり、このうちナシの面積は約60%である。
- 本県育成のナシ新品種（新甘泉等）や本県と農研機構が共同育成したカキ新品種（輝太郎）を計画的に導入している。また、消費者からの人気が高いブドウ・シャインマスカットの栽培も行っている。

### 1 ナシ『ジョイント仕立て』の取り組み

本県育成の新品種「新甘泉」「秋甘泉」等で、ナシ樹の新しい仕立て方である『ジョイント仕立て』に取り組んでいる。



研修生による人工交配実習

本校での「ジョイント仕立て」の栽培管理実習をとおして、将来的に自立就農を目指す学生及び研修生は、就農前に本仕立ての疑似体験行う事ができ、また自身のナシ経営へのジョイント仕立て導入の適性を検討・判断する事ができる。



学生によるジョイント作業

### 2 『6次産業化』への取り組み

果樹コースで生産される果実を使用して、ジャム等の加工品製造に取り組んでいる。

平成28年度は、学生のプロジェクト学習として、規格外となった桃を使用した「桃ドレッシング」を製作し「農大ブランド」として認定された。



ドレッシングの試作



「桃ドレッシング」完成品

## 【野菜コースの概要】

野菜科では鳥取県で栽培されている主要品目である、スイカ、白ネギ、ブロッコリー、トマトを中心として栽培実習を行っています。

また、将来の鳥取県農業の担い手となるために、栽培管理能力の習得だけでなく、経営感覚に優れた農業者となるべく農産物の販売をとおして市場原理、消費者の購買行動の把握等についても習得を進めている。



### 1 ガラス・硬質フィルム温室

大玉トマトの暖房には、二酸化炭素削減効果の高い木質ペレットを燃料とした「ごろん太」を活用し、学生への二酸化炭素排出削減意識の醸成を進めている。

今後の日本農業は野菜工場化が想定されていることから、施肥および灌水の自動灌水システム、ハウス温度による自動換気システムの管理技術を習得している。



### 2 ビニールハウス

鳥取県内で使用されている一般的なビニールハウスを活用してスイカ、ミニトマト、イチゴ等の栽培実習およびプロジェクトを実施している。



### 3 露地

白ネギ、ブロッコリー等の鳥取県で栽培されている主要な露地品目について実習を行っている。





## 【花きコースの概要】

鳥取県花き栽培技術指針(平成19年3月発行)に掲載されている品目を中心に、ストック、シンテッポウユリ等の切り花、ペチュニア、パンジー・ビオラ等の花壇用苗物、シクラメン、サイネリア等の鉢物を栽培実習している。

また、生産品の出荷先は主に近隣の直売所で、切り花、花壇苗等を組み合わせながら、農業大学校の花が途切れないように販売実習を行っている。

### 1 鳥取県花き品評会の参加 (平成28年10月)

- ・出品したシンテッポウユリが評価され審査員優秀賞を受賞。



### 2 「花育」活動 (平成29年2月10日 倉吉市立関金保育園)

- ・花きコースでは、単に栽培だけでなく、学生が先生となり自ら栽培した花を幼児に紹介と寄せ植えの方法を教える「花育」活動を実施。幼児は花を親しむ機会となり、大変好評です。



花の名前・特徴を説明



配置を考えての植栽指導

### 3 新技術の導入 二重空気膜ハウスの様子 (左:通常ハウス、右:空気膜ハウス)



#### ○メリット

- ・保温効果上昇。
- ・暖房コスト低減。
- ・比較的風に強い。

#### ○デメリット

- ・雪の時に屋根部分に雪が溜まりやすく、また、落雪しにくい。
- ・家根を膨らますため、常にモーターを回し空気を送る必要あり (電気代アップ)。

## 【作物コースの概要】



作物コースでは、水田営農の基幹作物である水稲を中心に栽培実習を行っている。また、転作作物として大豆、小豆の栽培実習のほか、H26年から白ネギ、ブロッコリーなどの野菜類の栽培実習も取り入れている。

水田は11筆（約1.7ha）を使用しており、学生が1人1筆以上を責任持って管理している。

実習では、播種、育苗から耕うん、代かき、田植え、除草、防除、収穫、調製、出荷までを行う。

作業実習は播種機、トラクター、田植機、コンバイン等の機械を使用し、機械の操作方法のほか、効率的な作業手順などを習得する。

また、栽培管理を通して施肥や水管理ポイント、病害虫の特徴及び防除方法を習得する。



有機栽培技術に興味を持つ学生も多く、チェーン除草、紙マルチ栽培、アイガモ農法など有機栽培技術を導入した栽培管理も行っており、実際の栽培管理を通して有機栽培のメリット・デメリットを実感しながら技術習得を図っている。

農業法人への就農を目指す学生も多く、水田農業の複合経営で取り入れられることが多い、白ネギ（秋冬）やブロッコリー（秋冬）の栽培実習を行っている。

また、農産物の加工実習も行っており、販売実習の一環で開催される農大市では「もち」などの加工品を製造販売している。





## 【畜産コースの概要】

畜産科は、肉用牛である「黒毛和種」と乳用牛である「ホルスタイン種」を飼養管理し、飼料用作物も栽培管理している。

### 1 肉用牛部門

- (1) 繁殖雌成牛10頭、育成雌牛5頭、子牛2頭

子牛飼養管理や繁殖技術に関する試験を実施して農業後継者を育成しています。

先端技術の受精卵移植等を活用した育種改良にも取り組んでいます。

- (2) 第11回全国和牛能力共進会宮城大会（2017年9月）に本校の雌牛「はちこう号」を女子学生（2年生）が雌牛を調教して出場しました。その結果、群出品区で全国第4位を獲得しました（右から2番目が本校学生と「はちこう号」）。調教による牛の行動制御技術の向上を目指しています。



### 2 乳用牛部門

- (1) 搾乳牛10頭、乾乳牛1頭、育成雌牛8頭、子牛2頭

搾乳は3頭を同時に搾乳するパーラー方式です。

子牛飼養管理、繁殖技術及び産乳成績向上に関する試験を実施して農業後継者を育成しています。

様々な機械操作の機会が多いことから、適正で安全な操作ができるよう指導しています。また、和牛と同じく調教による牛の行動制御技術の向上にも取り組んでいます。



## 【研修科の概要】

- 社会人向けの就農研修制度を運営
- 就農に必要な基礎知識・基本技術から実践スキルの習得まで、体系的な研修により、研修生一人一人の就農をサポート

### (1) 公共職業訓練「アグリチャレンジ科」

- ・年3回、各期定員25名で募集、運営。現在までに約150名の研修生を受け入れ。
- ・主に、農業機械の操作方法等の基本技能を身につけるための、約4か月間の短期集中訓練。
- ・研修生の就農率は、8割以上を占める。



### (2) 先進農家実践研修

- ・地元機関及び生産部によるサポート体制のもと、就農予定品目に関する実践技術、経営ノウハウを農家のもとで習得する1年間の派遣型研修。
- ・アグリチャレンジ科を修了する等、農業に関する基礎を有する者を対象に実施。
- ・現在までに6市町にて10名の研修を実施。各産地の主要品目（スイカ、長いも、トマト、白ねぎ、アスパラガス、梨、芝等）の栽培管理技術を習得し、全員が各地で就農するに至っている。



### (3) スキルアップ研修（長期研修（12ヶ月間）・短期研修（4ヶ月間））

- ・就農予定品目の一環した栽培管理技術を習得する校内での研修。
- ・12ヶ月間の長期研修では、作付計画の作成、資材選択、圃場管理、収穫調製、収支決算・分析までを行う「模擬経営」を実施。4ヶ月間の短期研修では、主要野菜品目（スイカ、白ねぎ、ブロッコリー、トマト）の栽培管理の基礎をグループ実習により習得。
- ・長期研修は年2回（年間定員15名程度）、短期研修は年5回（各期定員5名程度）で運営。

